

関市の人口予測

1. 人口の将来推計

本計画の人口推計は、第5次総合計画と同じく関市人口ビジョン改定版（令和2年3月改定）に示された目指す人口の将来展望を採用します。

平成17年まで増加を続けてきた本市の人口は、平成22年には減少に転じ、計画満了時の令和17年の人口は平成27年から約1割減少し、約8万人になると予測されています。

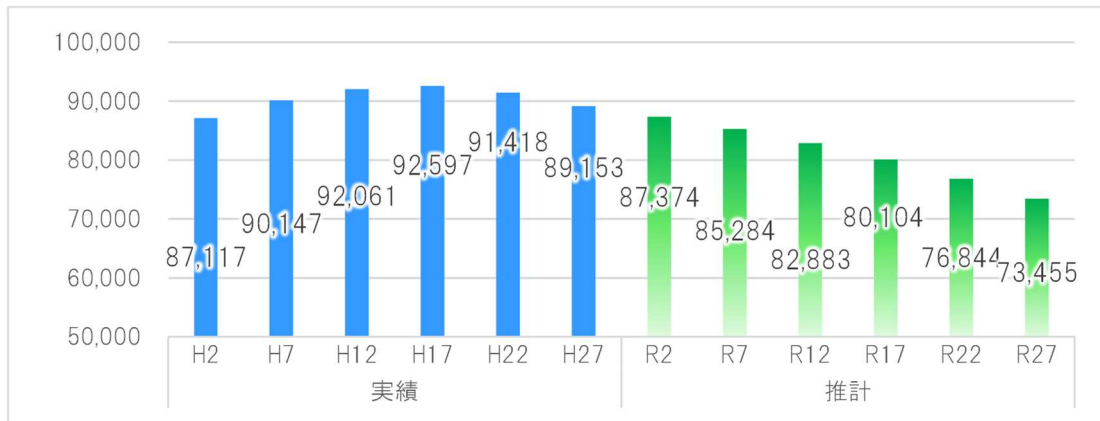


図1 人口の実績と将来推計

2. 地域別の人口推計

国土交通省国土技術政策総合研究所が提供する、「将来人口・世帯予測ツール V2（H27 国調対応版）」を用いて、推計した地域別の人口推計は以下のとおりです。

すべての地域で人口が減少していますが、2045年における2020年からの減少率は、板取地区及び上之保地区が70%以上と非常に大きく、洞戸地区及び武儀地区が40%以上、武芸川地区が35%、関地区が20%となり、関市全域で24%の減少率となります。

表1 地域別の人口推計

和暦	H27	R2	R7	R12	R17	R22	R27
西暦	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045
関地域	75,198	73,617	71,540	68,831	65,679	62,108	58,494
洞戸地域	1,932	1,752	1,562	1,430	1,305	1,165	994
板取地域	1,114	832	606	459	380	294	217
武芸川地域	6,023	5,830	5,510	5,163	4,749	4,278	3,757
武儀地域	3,281	2,892	2,557	2,265	2,012	1,766	1,536
上之保地域	1,605	1,338	1,101	891	699	530	385
関市全域	89,153	86,261	82,876	79,039	74,824	70,141	65,383

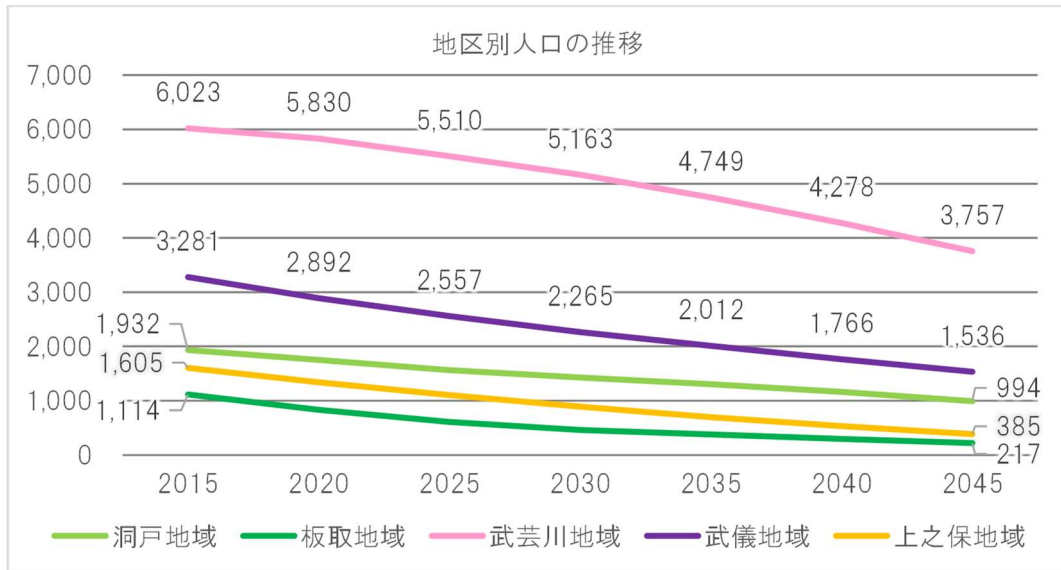


図 2 地域別の人口推計

3. 高齢者世帯の割合

ツールで予測した、地域別の高齢者世帯の割合は、以下のとおりです。

高齢者世帯とは、高齢者（65歳以上）が世帯主の単独及び夫婦のみの世帯をいいます。

関地域及び武芸川地区で構成される「市中心部」は、2020年が25%程度であるのに対して2045年には35%程度まで上昇します。

しかし、西ウィング（洞戸、板取）、東ウィング（武儀、上之保）はいずれも、2020年度すでに35%を超えており、2045年には50%程度まで上昇します。

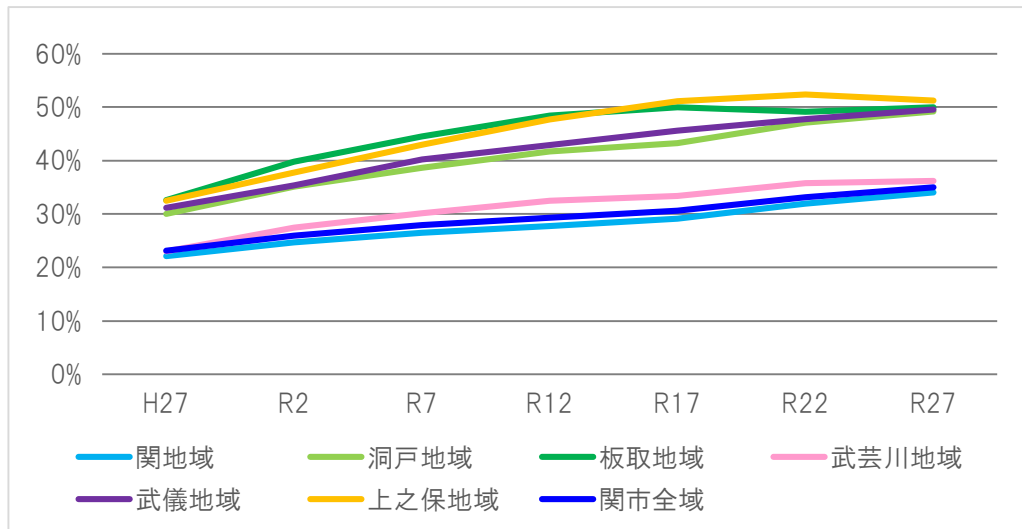


図 3 高齢者世帯の割合

4. 地域別可住地人口密度の予測

関市は、人口規模が大きい市中心部（関地域と武芸川地域）と、農山村部で過疎化が進む西ウイング（洞戸地域と板取地域）、東ウイング（武儀地域と上之保地域）ではその特徴（基幹産業、歴史や文化、気候、有している地域資源など）に大きな違いがあります。

総面積から林野と湖沼を除いた可住地における人口密度を見ると、令和2年現在における関地域と板取地域の差は約6倍ですが、20年後の令和22年は16倍以上に広がり、市中心部と西ウイング、東ウイングの差はいま以上に大きく広がります。

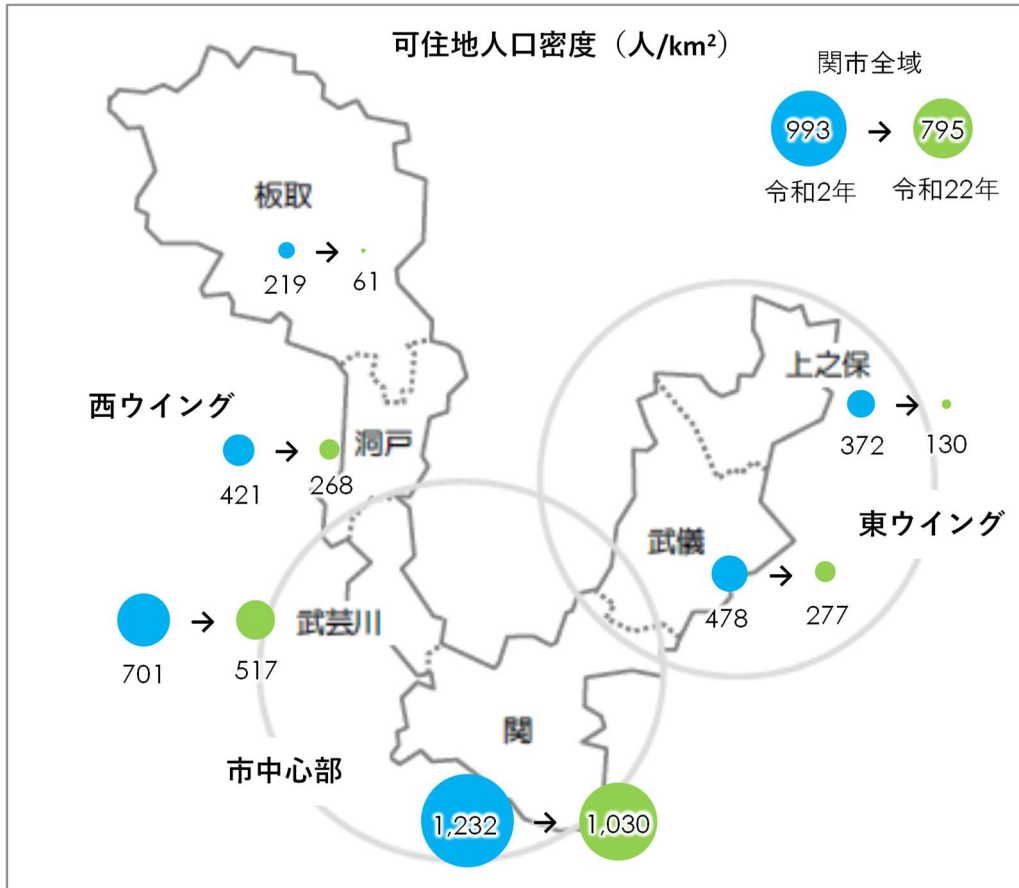


図4 可住地人口密度の予測

表2 人口密度の予測

項目	人口密度			可住地人口密度		
	R2	R17	R27	R2	R17	R27
関地域	725	641	571	1,187	1,090	971
洞戸地域	46	33	25	359	300	229
板取地域	6	2	1	125	79	45
武芸川地域	205	168	133	665	574	454
武儀地域	47	31	24	401	316	241
上之保地域	31	14	8	269	171	94
関市全域	185	158	138	940	848	741